

恵那市観光ビジョン

～ 恵那らしさを追求した、稼ぐ観光地（仮） ～

(案)

令和元年 月

恵 那 市

目次

I. 計画の策定にあたって	
1. ビジョン策定の背景	3
2. 観光ビジョンの必要性	5
II. 観光ビジョンについて	
1. 観光ビジョンの目的	7
2. 観光ビジョンの位置づけ	7
3. 観光ビジョンの期間	7
III. 基本方針	
1. 目指すべき将来像	8
2. 基本的な考え方	8
3. 重要業績評価指標（KPI）の設定	8
4. 政策の柱	9
IV. アクションプラン	12
V. フォローアップ体制の構築	
1. フォローアップの目的	25
2. フォローアップ体制	25
3. フォローアップの時期	25
4. ビジョンの見直し	25
VI. 参考資料	
1. 計画の策定体制	26
【資料編】	27

I. 計画の策定にあたって

1. ビジョン策定の背景

日本の総人口は 2008 年を境に減少局面に入り、その減少スピードは、今後加速度的に高まっていくと予想されています。「恵那市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」による本市の将来展望においても人口減少と少子高齢化が進むと考えられており、このまま進むと生産年齢人口の減少に伴う税収の減少、学校の統廃合など教育環境の変化、買い物や医療など生活に欠かせないサービスの確保、介護や医療にかかる費用負担の増加など日常生活や社会保障・防災への影響など、多くの課題に直面することが予想されます。

こうした認識のもと、人口減少に歯止めをかけ、地域を活性化するため、本市では「はたらく」「たべる」「くらす」の 3 本柱で取り組んでおり、「はたらく」については、魅力的な働く場所を確保するため、①成長性、②域外からの外貨獲得、③第 3 次産業から第 2 次、第 1 次産業への波及、④地域コミュニティの強化、⑤条件不利地域でも十分な競争環境、これら 5 つの観点から、観光に関する取組も重要な要素のひとつとして重視しています。

■ 地域活性化のために観光を重視する 5 つの理由

① 成長性

政府は、20 年までに年間の訪日外国人旅行者を 4,000 万人、30 年までに 6,000 万人とする目標を掲げており、21 世紀のリーディング産業として今後も成長が見込まれています。一方、本市においても大河ドラマ「麒麟がくる」の放送開始、WRC の開催、東京オリ・パラの開催により国内外からの多くの旅行者が見込まれて、国際観光・国内観光ともに拡大するチャンスが到来しており、産業としての成長性が見込まれます。

② 域外からの外貨獲得

成功している観光地では、その地域に赴かなければ食することや入手することも経験することも出来ないモノが数多く存在し、希少価値の高さを売りにして、域外から外貨を獲得しています。一方、本市においても自然体験や農業体験など恵那でしか経験できない観光コンテンツを創出し観光客の消費行動につなげることにより、外部から新たに外貨を獲得することができ、富の増加につげることができます。

③第3次産業から第2次、第1次産業への波及

観光業は裾野の広い産業です。旅行業や宿泊業、運輸業だけでなくレストランや娯楽施設、通訳といったサービス業、製造業、小売業、金融業にも広がります。本市においても、宿泊・飲食・サービスに代表される第3次産業にとどまらず、栗や自然薯を使った土産物や消費財の生産における第2次産業、更にそれらの原材料を共有する第1次産業へと、その波及効果によって地域全体の産業の活性化につながります。

④地域コミュニティの強化

地域資源の掘り起こし活動を通じて、住民が地域の特徴や魅力を認識し、自らの地域に愛着や誇りを持つことで、地域住民としての自覚が芽生え、地域のために考え、行動を起こすようになり、更には様々なネットワークが醸成され、地域コミュニティの再建・強化につながります。本市においても、こうした活動を通じて市内13地域のアイデンティティとも呼ぶべき地域意識が高まり、地域コミュニティをより堅固にすることが期待できます。

⑤条件不利地域でも十分な競争環境

観光コンテンツを演出する「非日常」の追求においては、笠周地域や上矢作、串原など大都市圏からの距離が遠く、交通利便性が低い条件不利地域でも、より有利な競争を展開できます。

2. 観光ビジョンの必要性

現在、全国の自治体が観光振興やシティプロモーションに力を入れており、本市も、これまでに連続テレビ小説「半分、青い。」などその時々ブームを利用した誘客プロモーションの展開や名古屋市内、首都圏で開催されるイベントでの観光PRを実施してきたほか、様々なお客様に恵那市での観光を楽しんでいただくため、Wi-Fi整備やトイレの洋式化、多言語での案内看板整備、外国語パンフレットの作成などのインフラ整備を進めてきました。また、恵那峡や道の駅、くしはら温泉ささゆりの湯など市内の観光施設のリニューアルによる誘客強化にも取り組んできました。

しかし、これまでの観光振興施策は、平成28年度以降、市の指針となる観光戦略が策定されていなかったことから、個々の方策相互に関連性のある取組を実施することができず、十分な成果を得ることができていませんでした。また、地域で開催される多くのイベントが市民向けの領域を超えておらず、観光客を誘客する意識や稼ぐ意識が醸成されていません。この他にも、観光資源に関する課題、プロモーションに関する課題、受入環境に関する課題が多く挙げられ、望ましい観光地としての在り方を追求して魅力を高めていくことができていません。

こうした課題を解決し、本市の観光産業を育成し、魅力的な働く場所を確保していくためには、恵那市における望ましい観光の在り方とその実現に向けた方策と手順を整理したビジョンを策定し、行政と市民、地域商社等の観光に携わる者が共有する必要があります。

■ 恵那市の観光に関する課題

【共通】

- 望ましい観光地としての在り方を追求して魅力を高め、観光で稼ぐという意識が地域に欠落している。
- 「比較的簡単に今すぐできること」、「各種施設の整備」、「イベント開催」、「その時々ブームに対応・追随したキャンペーン」など安直で短絡的な誘客プロモーションに終始している。
- 近視眼的な取り組み、個々の方策相互に関連性がない、思いつきの取り組みを続けている
- 地域に積極的に関与し、恵那市における観光全体の舵取り役となる組織体制が整っていない
- 地域において誘客する意識や稼ぐ意識が醸成されていない

【観光資源に関する課題】

- これまで恵那峡や日本大正村など団体旅行の誘客に取り組んできたため、個人旅行者の誘客に欠かせない魅力ある体験型コンテンツが整備されていない
- テーマ性の高い宿泊で誘客したいが施設が整備できていない
- 旅行の目的としてグルメが関心を集めているが、食をテーマにした誘客ができていない
- まちづくり団体が地域の観光の担い手となっているため、多くのイベントが市民向けイベントの領域を超えていない

【プロモーションに関する課題】

- マーケティングに基づく効果的なプロモーションが脆弱である
- 旅行商品販売代理店や商品を企画する事業者を意識した営業活動・情報発信ができていない

【受入環境に関する課題】

- サインの多言語化、支払方法のキャッシュレス化、公衆無線LAN環境など外国人観光客がスムーズに観光を楽しめる環境が整っていない
- 観光客の行動にあわせた2次交通が整っていない
- 地域における観光コンテンツの予約受付、料金決済に関する体制が整っていない
- 多くのイベントがまちづくり団体により運営されており、人員不足から行政・観光協会が運営を補佐していることから、本来の業務に支障をきたしている

Ⅱ. 観光ビジョンについて

1. 観光ビジョンの目的

本ビジョンは、観光振興の課題、目的、目標、方向性、手段、事業主体を明らかにすることで、観光に携わる者が恵那市における望ましい観光のあり方とその実現に向けた方策と手順を共有することを目的とします。

2. 観光ビジョンの位置づけ

本ビジョンは、望ましい観光のあり方を示すとともに、展開する施策等についてまとめたものです。本市の最上位計画である「第2次恵那市総合計画」をはじめ、「恵那市産業振興ビジョン」やその他の関連計画と整合を図りながら、各種事業を推進していきます。

3. 観光ビジョンの期間

ビジョンの計画期間は、上位計画である第2次恵那市総合計画に合わせた令和7年度までの6年を目処とします。

一方で、具体的な事業を記載するアクションプランについては、観光を取り巻く様々な状況の変化のスピードを考慮し、令和5年3月までの3ヶ年を一端の目処とし、令和4年度中に中間評価を実施し、その結果によりその後の3年間に実行すべき内容を含めた計画を再度策定します。

	R 2年度 (2020)	R 3年度 (2021)	R 4年度 (2022)	R 5年度 (2023)	R 6年度 (2024)	R 7年度 (2025)
総合計画	第2次恵那市総合計画 (H28~R7) ・前期計画 (H28~R2) ・後期計画 (R3~R7)					
産業振興ビジョン	恵那市産業振興ビジョン (H30~R7) ・見直し (R2.3)					
観光ビジョン	恵那市観光ビジョン (R2~R7) ・中間評価 (R4) ・アクションプラン見直し (R5.3)					

Ⅲ. 基本方針

1. 目指すべき将来像

恵那らしさを追求した、稼ぐ観光地

スポーツ、自然、歴史・文化、食などの13地域の資源を活かした観光資源の磨き上げと掘り起こしを進め、誰もが楽しめる魅力的な観光コンテンツを創造し、本市を訪れる全ての旅行者に恵那市を満喫していただける多様性・多面性のある観光地づくりを行政、地域商社、観光協会、民間、市民が一体となりスクラムを組んで推進することにより、本市の観光に携わる者が稼ぐことができる持続可能な観光地を目指します。

2. 基本的な考え方

市民が誇りをもち、郷土愛を深めながら、
恵那にしかない特別な体験で観光産業を育成し、
域外からの外貨を獲得できる、持続可能な観光地づくりを行う

観光を外貨獲得する本市の成長産業として捉えながら、一方で、地域の歴史文化の継続と豊かな市民の暮らしを実現するための方策としても捉え、持続可能な観光地づくりを推進します。

3. 重要業績評価指標（KPI）の設定

本ビジョンにおける成果指標を以下に掲げ、目標値の達成を目指していきます。

	現状値	令和4年 (2022)	令和7年 (2025)
観光入込客数	415万人(H30)	435万人	450万人
旅行消費額	87億円(H29)	95億円	100億円
延べ宿泊者数	24.6万人(H30)	26万人	30万人
外国人延べ宿泊者数	1.8万人(H30)	2.5万人	3万人

4. 政策の柱

本市の目指すべき将来像を実現するため、次の4つの政策の柱に基づいて事業を実施します。

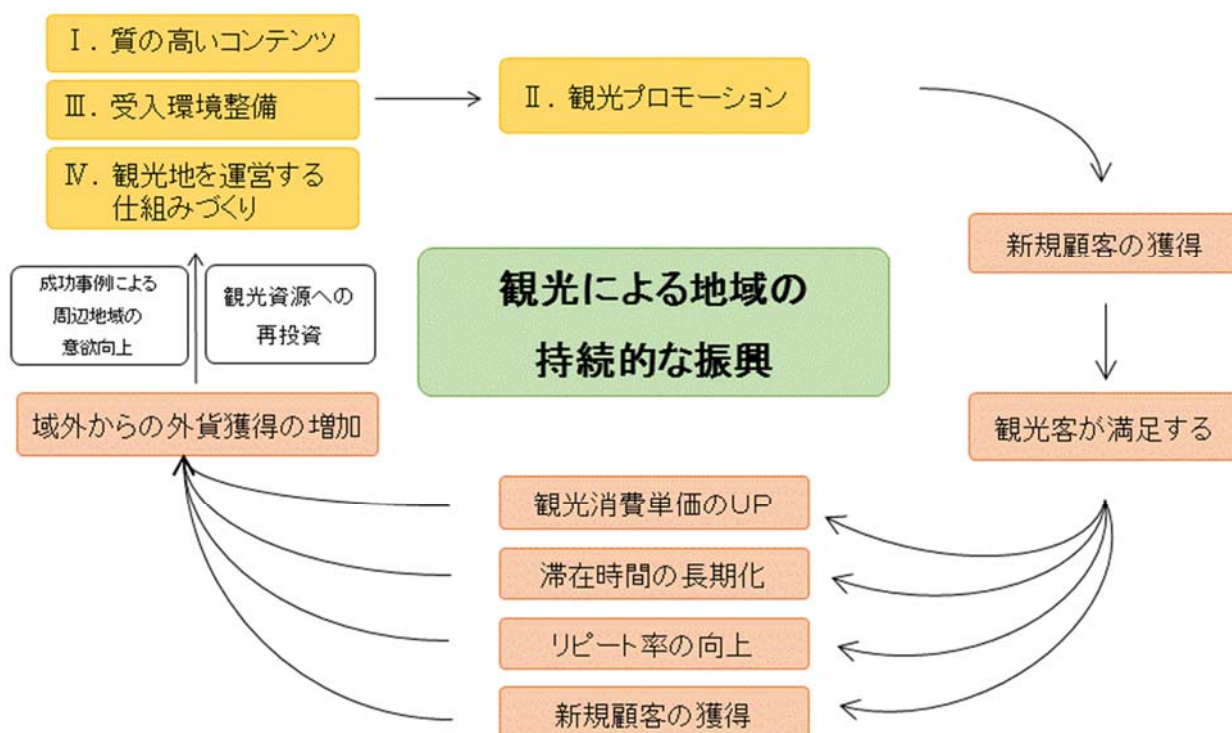
(1) スポーツ、自然、歴史・文化、食などの魅力を活かした恵那らしい
オンリーワンのコンテンツの創造

(2) 国内外の旅行者に恵那市の魅力を伝えるきめ細やかな観光プロモーション
の展開

(3) あらゆる旅行者がストレス無く快適にすごせる受入環境（ユニバーサルツ
ーリズム）の充実

(4) 市民と行政、観光協会、地域商社、恵那市全体でスクラムを組んで観光地
づくりを推進する仕組みの構築

(参考) 好循環による成長イメージ



(参考) 恵那市の観光に関するSWOT分析

【強み】	【機会】
<p>○観光資源 豊かな自然／アウトドアスポーツ、キャンプ場が多い／歴史の町並み／文化財(史跡)が多い／棚田など農村風景(日本の美しさ)／温泉／栗きんとんや五平餅などの特産品／集客力の高い道の駅／人の温かさ</p> <p>○旅行者ニーズ 東海地方からの旅行者が増加／大人だけの家族旅行が人気(シニア層)</p> <p>○アクセス 名古屋までのアクセスの良さ</p> <p>○受入体制 岩村の観光ガイドが良い／広域連携による周遊観光の発信</p>	<p>○国際的なイベントの開催 世界ラリー選手権日本ラウンドの開催が決定／ポーランド共和国ボート・カヌー代表の東京オリンピック事前合宿が決定</p> <p>○旅行者ニーズ 名所より地域交流に価値／アウトドア・アクティビティが人気となってきている／台湾・中国からの旅行者の増加／東京オリンピックによる外国人旅行者増加／地方での訪日旅行者の増加／グルメ・温泉・自然が旅行目的の人気となってきている／文化財に対する関心の高まり</p> <p>○社会環境 大河ドラマの主人公に恵那市にゆかりのある明智光秀が決定／アニメによる岐阜の知名度アップ／観光立国へ向けた国の動き</p>
【弱み】	【脅威】
<p>○観光資源 着地型体験コンテンツが少ない／宿泊施設が少ない／飲食店、お土産店が少ない／ブランド商品不足／観光消費額が少ない／地域活力の低下／核となる観光資源がない</p> <p>○旅行者ニーズ 交通網発達による通過型観光(宿泊少ない)／関東・近畿からの旅行者減少／周遊が少ない／東海地方以外での知名度が低い／アジア以外からの旅行者少ない</p> <p>○受入体制 Wi-Fiなど通信環境整備の遅れ／バリアフリー対応の遅れ／多様な関係者を巻き込んだ観光地づくり体制が十分でない</p>	<p>○観光資源 観光産業の生産性が低い／個人旅行のニーズの多様化に対応できていない／観光の担い手となる人材の不足／訪日外国人へ地方の魅力が伝わっていない</p> <p>○旅行者ニーズ 若者の内向志向／少子高齢化による国内旅行の減少／宿泊客の飛騨圏域への集中</p> <p>○社会環境 他域の観光地の活性化による競争増加／アジアの不安定要因</p>

【まとめ】

- 物見遊山的な観光から目的型旅行へと旅行者のニーズがシフトしている中、豊富にある地域資源を活かした着地型体験コンテンツを整備する必要がある。
- 世界ラリー選手権、東京オリ・パラを契機としたスポーツへの関心やアウトドア・アクティビティの人気が高まってきている。本市には笠置峡やキャンプ場など着地型体験コンテンツを活かした観光地づくりを推進できる環境が整いつつある。
- 世界的に旅行人気が高まるなか、本市への台湾・中国からの旅行者が増加しており、インバウンド増加に向けてビジネスチャンスがある。
- 訪日外国人が増加しているが、受入環境整備の対応が求められている。

(参考) 恵那市の観光に関する今後の見通し

・大河ドラマ「麒麟がくる」放送（2020年1月～12月）

恵那市明智町にゆかりのある戦国武将 明智光秀を主人公とした大河ドラマの放送により、大河ドラマ、明智光秀、山城を契機とした観光客の増加が見込まれる。大正ロマン館に整備する大河ドラマ館（2020年1月オープン）には期間中6万人の誘客を目指す。

・恵那峡リニューアルオープン（2020年3月）

恵那市を代表する観光地恵那峡の再整備によりビジターセンターや森林散策路、芝生広場、デッキ広場などを整備した公園が完成する。福沢桃介が大井ダムを建設したことによりできた恵那峡は2020年に100周年を迎える。

・東京オリンピック・パラリンピック（2020年7月）

東京五輪を契機として、東京都には外国人を含めて1,000万人の来場者が見込まれている。また、大会を契機として周辺の受入環境も充実することから大会開催後もインバウンドの増加が見込まれる。本市では笠置峡でボート・カヌー競技ポーランド代表の事前合宿が行われる。

・モータースポーツイベント（2020年11月）

F1ヤル・マン 24時間と並ぶ世界規模の自動車レース世界ラリー選手権日本ラウンドが2021年から開催され、恵那市においてもスペシャルステージが開催される。2017年から開催されているL1ラリーと合わせ、日本だけでなく世界からの誘客を図る。

・第76回冬季国体（2021年1月～3月）

第67回国民体育大会「ぎふ清流国体」から7年。2021年に開催される第76回国民体育大会冬季大会スケート協議会（スピード）が、クリスタルパーク恵那スケート場で開催される。前回は3万人を超える来場者が恵那市を訪れた。

・リニア中央新幹線開業（2027年）

2027年に東京から名古屋まで開業が予定されており、中津川市に岐阜県駅が設置される。大都市圏との所要時間短縮による市民の利便性の向上とともに、地域間交流の活発化によって、地域の観光や産業等への幅広い波及効果が期待される。

IV. アクションプラン

「恵那らしさを追求した、稼ぐ観光地」を実現するため、恵那市観光ビジョンの政策の柱に沿って、2025年度までに取り組むべき事業を取りまとめたものである。

今後の状況を踏まえアクションプランに事業を追加し、実施することも検討する。

施策の体系

政策の柱Ⅰ. スポーツ、自然、歴史・文化、食などの魅力を活かした恵那らしいオン

リーワンのコンテンツの創造

- やってみたくなるスポーツアクティビティの推進
- ゆっくりしたくなる自然を活かしたツーリズムの創造
- 知りたくなる郷土の歴史・文化を活用したツーリズムの推進
- 食べたくなる恵那ならではの美味しいグルメの開発

政策の柱Ⅱ. 国内外の旅行者に恵那市の魅力を伝えるきめ細やかな観光プロモーションの展開

観光プロモーションの展開

- 観光客が効率的に情報取得できる提供方法の確立
- 大河ドラマ、世界ラリー選手権、東京オリ・パラなど大型イベントを活用した情報発信の展開
- 台湾や中国をターゲットとした観光プロモーションの展開
- 県、企業との連携や広域で連携した観光プロモーションの展開

政策の柱Ⅲ. あらゆる旅行者がストレス無く快適にすごせる受入環境（ユニバーサルツーリズム）の充実

ユニバーサルツーリズムの充実

- 外国人、障がい者、高齢者など全ての旅行者にやさしい受入環境（ユニバーサルツーリズム）の推進
- 多様な旅行ニーズに合わせた宿泊施設の提供
- 観光客が利用しやすい2次交通対策の充実
- 観光地としての品質を管理する仕組みの構築
- 市民を含む受入側の意識改革、人材の育成・確保

政策の柱Ⅳ. 市民と行政、観光協会、地域商社、恵那市全体でスクラムを組んで観光地

観光地づくりを推進する仕組みの構築

- 地域商社による観光地づくりの推進
- 地域の人々が連携する仕組みの構築

I. スポーツ、自然、歴史・文化、食などの魅力を活かした恵那らしいオンラインのコンテンツの創造

やってみたくなるスポーツアクティビティの推進

○ボート・カヌー、ボルダリング、モータースポーツ等スポーツを活かした着地型体験コンテンツによる誘客の促進

- ・ボート・カヌーやボルダリング、モータースポーツ等スポーツに関する市内の着地型体験コンテンツやモデルコースの紹介、長期滞在が見込めるスポーツ合宿誘致の強化、アウトドア施設の紹介など、スポーツツーリズムの推進に向け、WEBサイトを制作しプロモーションを展開する。（観光交流課）
- ・民間が実施するスポーツに関する着地型体験コンテンツを活用したイベントの開催経費の一部を補助するなど、開催の継続を促進する。（観光交流課）
- ・スポーツに関する着地型体験コンテンツを企画・実施する事業者を誘致するため、スポーツアクティビティ企業に向けたプロモーションを実施する。（観光交流課）
- ・スポーツに関する着地型体験コンテンツを企画・実施する事業者を誘致、又は育成するため、施設整備に要する初期投資の一部を支援する。（観光交流課）
- ・インスタグラムなどSNSでの情報発信を強化し、誘客を促進するため、インフルエンサーと連携した体験メニューの造成を推進する。（DMO）
- ・ホストタウンを契機とし、大使館の協力のもとポーランドの文化や食を紹介するイベントを開催し、合わせてオリンピックによる講演やボート・カヌー体験など、市内の小中学生、高校生だけでなく全国からの誘客と交流を促進する。（観光交流課）

○世界ラリー選手権（WRC）日本ラウンドの開催を契機とした観光コンテンツの整備

- ・愛知県と岐阜県で開催される世界ラリー選手権日本ラウンドを活用した誘客を推進するため、市内各地域と連携したイベントを開催する。（企画課）
- ・民間が実施するモータースポーツに関連した大会やミーティングを恵那笠置山モーターパークに誘致する。（企画課）
- ・WRCを契機とした民間が実施するスポーツに関する着地型体験コンテンツを活用したイベントの開催経費の一部を補助するなど、開催の継続を促進する。（観光交流課）
- ・恵那笠置山モーターパークに休憩施設の整備を検討する。（企画課）

○長期滞在につながる大学、実業団などのスポーツ合宿誘致の強化

- ・大学や実業団による合宿旅行の誘致を進めるため、地域や旅行事業者と連携し、WEB、パンフレットによる誘致プロモーションを実施する。(DMO)
- ・合宿旅行の誘致を進めるため、パンフレットなど旅行商品造成に要する経費の一部を支援する。(観光交流課)
- ・給食や送迎など合宿に必要なサービスを提供する事業者を誘致、又は育成するため、施設設備に要する初期投資の一部を支援する。(観光交流課)
- ・関係人口を増加させるため、市民と大学、実業団が交流するスポーツ体験教室を開催する。(DMO)

○ドローンを活用した誘客の促進

- ・ドローン愛好家を誘客するため、上矢作グラウンドにドローン整備スペース(電源付き建物)を建築するなど、ドローンパークとしての環境整備を推進する。(観光交流課)
- ・ドローンを専門とする企業を誘致するため、コテージかわせみなど既存観光施設を活用した研究施設や試験場の整備を推進する。(観光交流課)
- ・ドローンを専門とする企業との連携により、スポーツドローンに関連したイベントを開催する。(DMO)
- ・インターネット上で公開される恵那市の風景動画の増加や大手ドローンメーカーによる発表会の開催など、ドローンを活用した誘客を通じた本市のPRを促進する。(DMO)
- ・観光誘客や教育にドローンを活用し、先進的な取組を推進するため、民間と連携した講演会・シンポジウムを開催する。(DMO)

○ウォーキング、サイクリングを活用した誘客の促進

- ・地域の観光スポットを巡るウォーキングコースを設定し、民間事業者との連携により定期的にウォーキングイベントを開催する。(DMO)
- ・地域や民間によるサイクルステーションの整備やレンタサイクル事業などサイクリングを活用した誘客に対する支援を検討する。(観光交流課)

○アウトドア施設の充実による観光誘客の促進

- ・根の上高原をはじめ、飯地高原テント村やモンゴル村、ささゆりの湯キャンプ場、奥矢作レクセンターなどでアウトドア用品メーカーと連携しデイキャンプ、キャンプ場、オートキャンプ場の整備を推進する。(DMO)
- ・ツーリズム東美濃や恵那市観光協会、商工会議所、商工会と連携し、民間事業者が行う市街地におけるRVパークの整備を支援する。(DMO)
- ・民間事業者を支援し、グランピング施設の整備を促進する。(DMO)
- ・恵那峡や恵那山荘、くしはら温泉ささゆりの湯をはじめとした観光拠点施設におけるオートキャンプ場の整備・拡張を推進する。(観光交流課)

○スポーツツーリズムを契機とした教育旅行の誘致

- ・市外の小中学生を対象としたトレッキングツアーやキャンプなどの自然体験教室を教育委員会と連携して開催し、教育旅行の誘致を推進する。(DMO)

ゆっくりしたくなる自然を活かしたツーリズムの創造

○民間の旅行事業者との連携による笠置山、矢作川などの豊かな自然を活かした体験コンテンツの充実と磨き上げ

- ・民間事業者と連携し、地域が行う既存の体験コンテンツの磨き上げや新たな体験型コンテンツを掘り起こし、担い手となる事業者の育成に関するノウハウを提供するなど、集客力の強いコンテンツの造成について支援する。(DMO)
- ・民間が行う福沢桃介に関する大井ダムの歴史や恵那峡の自然を体験できるガイド付きウォーキング、山野草に関するワークショップなど着地型体験コンテンツを造成に要する経費の一部を支援する。(観光交流課)
- ・恵那峡公園での朝市の開催、ライトアップの拡大など、朝や夜の観光コンテンツの充実を促進する。(DMO)
- ・恵那市観光協会や支部が行う、恵那峡や坂折棚田など、本市の自然に係る観光資源を活かしたイベントの開催などに要する費用の一部を支援し、開催の継続を促進する。(観光交流課)
- ・地域が実施する恵那峡温泉や地元食材など地域資源を活用した「ONSEN・ガストロノミーウォーキング」の取組を支援し、継続的な開催を促進する。(観光交流課)

○農林業を体験できる里山ツアーの造成

- ・一般農家と連携し、農業体験、農泊などのアグリツアーを実施する。(農政課)
- ・森林組合と連携し、森林の間伐や手入れを通じて木材の生産を体験する林業体験ツアーを実施する。(林政課)

知りたくなる郷土の歴史・文化を活用したツーリズムの推進

○大河ドラマ「麒麟がくる」の放送を契機とした明智光秀ゆかりの地に関する観光コンテンツの充実

- ・大河ドラマ館の整備、明智光秀ゆかりの地を巡る旅行商品造成、明智光秀関連商品、明智グルメの開発など、大河ドラマ「麒麟がくる」を活用した誘客を促進するとともに、市内を巡るスタンプラリー等の開催により市内への周遊を図る。(観光交流課)
- ・恵那市大河ドラマ「麒麟がくる」実行委員会が実施する明智光秀ゆかりの地や白鷹城(明知城)跡などの地域の歴史と五平餅や朴葉寿司、地酒などの地域食材を活用した「歴史・ガストロノミーウォーキング」の取組を支援する。(観光交流課)

○中山道、街道の歴史文化を活用した観光コンテンツの充実

- ・案内体制を強化するため、市民による観光ガイドを養成する。(観光交流課)
- ・民間や地域が行う中山道ウォーキングイベントを定期的な開催に要する経費の一部を支援する。(観光交流課)
- ・県下広域連携である『中山道ぎふ17宿歩き旅』との連携により、着地型体験コンテンツの拡充、常時提供を推進する。(観光交流課)

○恵那市の歴史・文化を活かした体験コンテンツの充実と磨き上げ

- ・民間や地域と協力し、岩村城下町に文化をテーマとした着地型体験コンテンツの充実を促進させ、文化に関する情報発信の拠点として磨き上げる。(DMO)
- ・民間や地域と協力し、日本大正村での食べ歩きや町歩きを活かした着地型体験コンテンツを充実させ、日本大正村での周遊を促進させる。(DMO)
- ・民間や地域と協力し、五毛座で開催される地歌舞伎定期公演に合わせたガイド付き地歌舞伎役者体験ツアーの催行など、市内で催行されている地歌舞伎に関する着地型観光コンテンツの充実を促進させる。(DMO)
- ・民間や地域と協力し、陶の原料となる陶土を活かした作陶体験など山岡陶業文化センターを活用した着地型体験コンテンツの充実を促進させる。(DMO)

- ・恵那市観光協会や支部が行う、岩村城跡や明智光秀ゆかりの地など、本市の歴史・文化に係る観光資源を活かしたイベントの開催などに要する費用の一部を支援し、開催の継続を促進する。（観光交流課）
- ・明智鉄道が行う、岩村城跡や日本大正村など明智鉄道沿線の観光資源を活用した旅行商品の造成に関する取組を支援する。（観光交流課）

食べたくなる恵那ならではの美味しいグルメの開発

○恵那グルメによる観光の活性化

- ・産官学で連携し、米、野菜、卵、肉などの本市ならではの食材を活かしたご当地グルメ弁当などの開発を推進するとともに、大規模なイベントや市外での積極的なプロモーションを実施する。（観光交流課）
- ・大河ドラマを契機として明智町を訪れる観光客の滞在時間を延ばすため、明智町内の飲食店における「光秀グルメ」の開発を促進する。
- ・地域の食を目的とした観光誘客を促進するため、民間による地元食材を活用した新たな郷土料理の開発を支援する。（観光交流課）
- ・恵那市の食に関する情報を整理し、WEB、パンフレットによるPRを展開する。（観光交流課）
- ・恵那駅周辺、恵那市役所周辺のグルメマップを作成し、観光客の市内飲食店の利用を促進する。（観光交流課）

○恵那の伝統食文化の活用

- ・産官学で連携し、新しい五平餅のレシピやたれを活用した新たな料理レシピの開発を推進するとともに、在外公館のレセプションなどで国外へ積極的に情報発信する。（観光交流課）

○恵那市の食材のブランド化

- ・恵那市の食材の販路を拡大するため、自然薯、秋冬トマト、ジビエ、栗、米などの生産者と市外の飲食店のマッチングを推進するとともに、恵那市の食材の知名度を向上する。（DMO）
- ・民間との連携により、恵那市の食材を活かした付加価値の高い新たなブランドの開発を推進する。（DMO）

○フードツーリズムの推進

- ・民間や地域が行う、山菜やタケノコ、きのこ狩りなどの体験と料理教室や旬の食材を活かしたグルメの組み合わせ等、フードツーリズムに関する取組を支援し、継続的な開催を促進する。(観光交流課)
- ・明智鉄道が行う、自然薯列車やきのこ列車などのグルメ列車に関する取組を支援し、継続的な開催を促進する。(観光交流課)

Ⅱ. 国内外の旅行者に恵那市の魅力を伝えるきめ細やかな観光プロモーションの展開

観光客が効率的に情報取得できる提供方法の確立

○マーケティングに基づく誘客プロモーションの展開

- ・観光客の年齢層や居住地などの動態やニーズを具体的に把握するためのアンケート調査を実施するとともに、観光客による自由な感想を収集できる環境を整備する。(DMO)
- ・ターゲットに合わせてSNSやメディアなど多様な情報発信手段を活用し、来てほしい人に情報が効率的に伝わる誘客プロモーションを展開する。(観光交流課)
- ・観光客の求める情報を効果的に発信するとともに、地域の観光資源に関する情報を洩れなく収集する仕組みを構築する。(DMO)
- ・情報発信の強化と誘客を促進するため、団体旅行を取り扱う旅行代理店や旅行商品を企画する事業者との外部連携を強化するとともに、事業者に本市を巡るモデルとなる旅行商品の提案を行う。(DMO)
- ・恵那市観光協会が名古屋など市外で実施する観光展などのプロモーションに関する取組を支援し、継続的な開催を促進する。(観光交流課)

○外国人に向けた効果的な情報発信の展開

- ・海外での情報発信を強化するため、他の団体が実施するアジア、欧米豪のインフルエンサーなどを招聘したファムツアーを積極的に活用する。(DMO)
- ・アジアや欧米豪の旅行雑誌への掲載やWEB等を活用した誘客プロモーションを実施する。(DMO)
- ・山城、地歌舞伎など恵那市の歴史文化を訪日外国人に分かり易く紹介するため、ネイティブ専門人材の解説文で観光ストーリーを面的に伝えるパンフレット、WEBサイトを整備する。(観光交流課)

大河ドラマ、世界ラリー選手権、東京オリ・パラなど大型イベントを活用した 情報発信の展開

○大河ドラマを活用した情報発信の展開

- ・恵那市明智光秀ゆかりの地特設WEBサイトを作成し、大河ドラマを契機とした観光客に明智光秀ゆかりの地や白鷹城跡、関連商品、光秀グルメのほか、市内で開催される関連イベントや観光情報を提供し、恵那市への来訪意欲を高めるとともに、恵那市の魅力を全国に発信する。（観光交流課）

○世界ラリー選手権、東京オリ・パラを活用した情報発信の展開

- ・世界ラリー選手権日本ラウンドや東京オリ・パラを契機とした訪日外国人や国内旅行者に、市内で開催される関連イベントや宿泊施設などの観光情報を提供し、恵那市への来訪意欲を高めるため、WEBサイトを作成する。（企画課）

台湾や中国をターゲットとした観光プロモーションの展開

○台湾における誘客プロモーションの展開

- ・日台交流協会への職員派遣を契機とし、台湾との連携を密にし、現地での情報収集、情報発信を強化する。（観光交流課）
- ・『台北国際旅展』での恵那市ブースの出展や現地の観光関連機関へのトップセールスによる観光プロモーションを実施する。（観光交流課）
- ・訪日旅行を企画・販売する旅行会社に対して、季節の旅行情報や最新情報を提供する。（観光交流課）
- ・ぎふロケツアーリズム協議会との連携により、台湾でも放送された「半分、青い。」などの映像作品を活用したプロモーションを展開する。（観光交流課）
- ・将来のリピーター獲得につなげるため、恵那市と台湾の若者が交流するためのイベントや方策を検討する。（観光交流課）

○中国における誘客プロモーションの展開

- ・岐阜県等と連携し、今後増加が見込まれる中国において、ブロガーによる情報発信を行うとともに、ブロガー目線から観光資源に対する評価、受入拡大に向けたアドバイスを得る。
- ・上海で行われる中国最大の旅行博『旅行博C I T M（中国国際旅遊交易会）』への出展を検討する。（観光交流課）

県、企業との連携や広域で連携した観光プロモーションの展開

○東美濃地域の市町との連携

- ・市も参画している東美濃歴史街道協議会により、山城サミットやお城E X P O への出展など、山城や地歌舞伎、中山道、明智光秀ゆかりの地などのテーマ毎にスケールメリットを活かした誘客プロモーションを展開する。(観光交流課)

○中津川市との連携

- ・中津川市と連携し、中山道や地歌舞伎、山城など、両市に共通した観光資源を活かした周遊ルートの策定や外国人モニターツアーの催行、SNSを活用したインバウンド向けプロモーションの展開、N E X C O との商談会など地域商材の販路拡大を展開する。(中津川恵那広域行政推進協議会)

○ぎふロケターリズム協議会との連携

- ・ロケターリズムを推進する県内の自治体と連携し、アニメや映画などの映像作品を活用したプロモーションを展開するとともに、聖地巡礼者が何度も訪れたくなる魅力ある地域づくりを推進する。(観光交流課)

○民間企業との連携

- ・首都圏の大手民間事業者と連携協定を積極的に締結することを推進し、民間企業のネットワークを活用した誘客プロモーションを展開するとともに、民間の視点から観光資源の磨き上げを行う。(観光交流課)

Ⅲ. あらゆる旅行者がストレス無く快適にすごせる受入環境（ユニバーサルツーリズム）の充実

外国人、障がい者、高齢者など全ての旅行者にやさしい受入環境（ユニバーサルツーリズム）の推進

○無料通信LAN（Wi-Fi）、キャッシュレス化など受入環境の整備の推進

- ・中津川・恵那チャレンジプロジェクトにより実施したインバウンドモニターの実施結果を踏まえ、無線通信LAN環境、デザインを統一した多言語サイン看板、ICTを活用した案内標識、キャッシュレス化を推進する。（観光交流課）
- ・観光案内やグルメの紹介、観光地までのアクセスなど市内での観光を快適に楽しむことができる観光アプリの導入を検討する。（観光交流課）

多様な旅行ニーズに合わせた宿泊施設の提供

- ・観光消費額の大半を占める宿泊者数を増加させるため、観光客の動向やニーズと地域事情を踏まえつつ、宿泊施設等の民間の施設の積極的な誘致を推進する。
- ・観光客の動向やニーズ、地域の実情を踏まえ、民泊、農泊、ゲストハウスの整備を推進するため、事業者への支援を検討する。
- ・根の上高原をはじめ、飯地高原テント村やモンゴル村、ささゆりの湯キャンプ場、奥矢作レクセンターなどでアウトドア用品メーカーと連携しデイキャンプ、キャンプ場、オートキャンプ場の整備を推進する。（DMO）（再掲）
- ・ツーリズム東美濃や恵那市観光協会、商工会議所、商工会と連携し、民間事業者が行う市街地におけるRVパークの整備を支援する。（DMO）（再掲）
- ・民間事業者を支援し、グランピング施設の整備を促進する。（DMO）（再掲）
- ・恵那峡や恵那山荘、くしはら温泉ささゆりの湯をはじめとした観光拠点施設におけるオートキャンプ場の整備・拡張を推進する。（観光交流課）（再掲）

観光客が利用しやすい2次交通対策の充実

- ・バスやタクシーなど2次交通の利便性向上について検討するため、観光事業者、交通事業者などによる委員会を設立する。（企画課）

観光地としての品質を管理する仕組みの構築

○観光客に対する満足度調査の実施

- ・観光客の評価に基づく品質管理を行うため、アンケートにより満足度調査を実施する。(DMO)

○外部事業者による品質調査の実施

- ・外部の旅行事業者の評価に基づく品質管理を行うため、恵那峡や岩村町、明智町を訪れる団体旅行の添乗員を対象とした満足度調査を実施する。(DMO)

市民を含む受入側の意識改革、人材の育成・確保

○観光に携わる事業者に向けた研修等の開催

- ・市内事業者に向けた東京オリ・パラ・WRCを契機としたインバウンド対応のためのセミナーを開催する。(DMO)
- ・体験コンテンツを企画、販売する事業者と連携し、事業者向けコンテンツ造成セミナーを開催し、魅力的な旅行商品の開発と受入体制の強化を図る。(DMO)

○市民に向けた観光地研修の開催

- ・市民や事業者が地域の魅力を学び、地域において誘客する意識や稼ぐ意識を醸成するための観光地セミナーを開催する。(DMO)
- ・地域にプロとしての意識を醸成し、本市を訪れるすべての観光客の満足度を向上するため、接客に関するセミナーを開催する。(DMO)

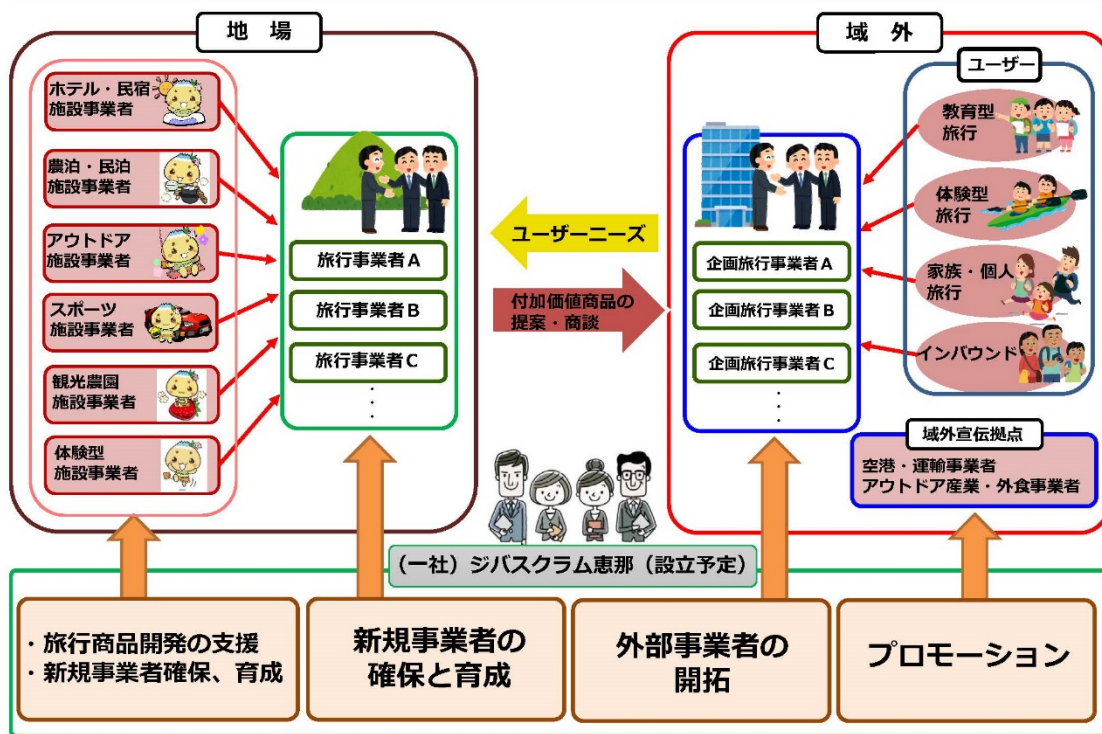
IV. 市民と行政、観光協会、地域商社、恵那市全体でスクラムを組んで観光地づくりを推進する仕組みの構築

地域商社による観光地づくりの推進

- ・地域商社により、地域資源を最大限に活用した「稼げる」観光地域づくりを推進するとともに、観光産業が地域の戦略的総合産業であることを踏まえ、農林や商工の分野においても地域や事業者が行う稼ぐ活動をサポートする。

地域商社：（一社）ジバスクラム恵那

観光分野での取組事例



地域の人々が連携する仕組みの構築

- ・経済団体、交通事業者、金融機関で組織する地域商社関係機関連絡協議会を定期的開催する。
- ・地域住民の「稼ぐ」意識向上を図るため、外部事業者と地域の若者をはじめとした住民との意見交換会を開催する。



V. フォローアップ

1. フォローアップの目的

本ビジョンで設定したアクションプランや数値目標のほか、策定検討会議で検討した行程を実効的かつ効果的に推進するため、恵那市産業振興会議に加え恵那市観光ビジョン策定検討会議を組み替えた「恵那市観光ビジョン推進会議」により、進捗状況を定期的に点検します。

2. フォローアップ体制

ビジョンの推進、管理にあたっては、多様な関係者との情報共有を常に意識して進めます。評価・検証などの作業は、「恵那市観光ビジョン推進会議」と行政、地域商社が連携して進めることとします。

恵那市産業振興ビジョンとも連動させつつ、目標達成に向けて全体計画の見直し・改善を行い、効率的かつ、効果的に計画の推進及び管理を行うため、恵那市産業振興会議によるフォローアップを実施します。

3. フォローアップの時期

フォローアップは、年度毎に行うものとします。

4. ビジョンの見直し

中間年度（令和4年度）を迎えた段階で施策・事業の検証を行い、必要に応じてビジョンの見直しを行います。

VI. 参考資料 ビジョンの策定体制

(1) 恵那市産業振興会議委員名簿

会長	森岡 孝文	(中部大学経営情報学部)
副会長	山本 好作	(恵那商工会議所)
委員	堀 鑛	(恵那市恵南商工会)
	大塚 康芳	(恵那市商店街連合会)
	竹中 道明	(恵那テクノパーク協同組合)
	阿部 伸一郎	(恵那市観光協会)
	柳原 博之	(もうかる農業プロジェクト検討委員会)
	西尾 直躬	(恵那市森林組合)
	勝 滋幸	(恵南森林組合)
	中島 豊己	(十六銀行恵那支店)
	鈴木 実	(恵那公共職業安定所)
	朝倉 和仁	(恵那県事務所)
	加藤 一郎	(恵那市役所)
	林 雅樹	(恵那市役所)
	オブザーバー	小坂 喬峰

(2) 恵那市観光ビジョン策定検討会議名簿(策定後:恵那市観光ビジョン推進会議)

座長	上田 隆穂	(学習院大学)
委員	日比 幹	((株) シティツアーズ)
	永島 孝志	((株) ディ・ライツ)
	小栗 康正	(恵那市観光協会)
	田中 秀彦	(恵那商工会議所)
	中垣 重壽	(恵那市恵南商工会)
	渡辺 康正	(明知鉄道)
	中島 豊己	(十六銀行恵那支店)
	加藤 一郎	(恵那市役所)

(3) 議論過程

令和元年6月14日	第1回	恵那市産業振興会議
令和元年9月13日	第1回	恵那市観光ビジョン策定検討会
令和元年10月23日	第2回	恵那市観光ビジョン策定検討会
令和元年12月3日	第2回	恵那市産業振興会議
令和元年12月11日	第3回	恵那市観光ビジョン策定検討会
令和2年1月		パブリックコメント実施
令和2年2月〇日	第3回	恵那市産業振興会議

資料編

1. 社会動態
2. 産業と雇用の情勢
3. 観光動態
4. 恵那市の主要な観光資源